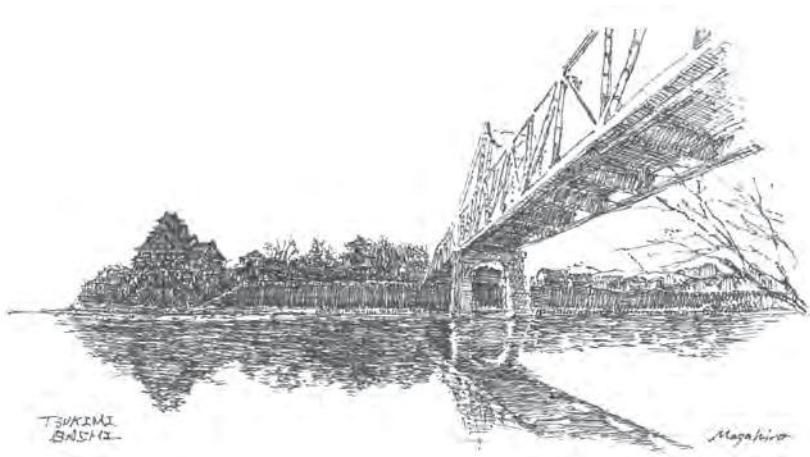


改めて「スポーツの価値」を考える

県教育庁 教育次長

日比 謙一郎



「スポーツ (sports)」の語源をこ存じでしようか。

ラテン語の「deportare」(テ・ポルターレ)に由来し、仕事や生活から離れる「気晴らしや遊び」という意味があります。16世紀頃に sports が英語化された当時は、戸外での運動やゲームの他、狩猟や賭博までを含み、その範囲は時代により変化してきました。

私たちにとっては、スポーツというと野球やサッカーなど、ルールに則り競い合うものがイメージされるかもしれませんが、スポーツ基本法には、スポーツは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と謳われており、散歩やサイクリング、体操なども広くスポーツと捉えられています。

スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで、楽しさや生きがい、勇気や克己心、友情や共感など様々な価値が得られ、人材育成や社会発展に向け大きな可能性を秘めています。国では、このような広いスポーツの価値を、スポーツが得意な人だけでなく社会全体に広げていくため、一昨年にスポーツ庁を創設し、スポーツを通じた健康長寿社会や共生社会の実現、地域・経済の活性化や国際貢献に取り組んでいるところ です。

岡山県のスポーツは、成人のスポーツ実施率や小中学生の体力合計点で全国平均を上回り、国民体育大会の総合順位が岡山国体後も12年連続で10位台であるなど優れており、この強みを競技力向上のみならず、地域社会の様々な分野に生かしていくことが期待されます。

また、学校教育においても、このスポーツの価値を上手に生かしていくべきでしょう。県教委では、教職員の働き方改革や生徒の心身の健全な発達のため、部活動休養日の徹底に取り組んでいます。これは過度な部活動を改善しようとするものであり、部活動そのものの意義を否定するものではありません。むしろ、今年の全国学力・学習状況調査では、中学3年のいずれの教科も、部活動の時間が1日1時間以上、2時間未満の生徒は平均正答率が最も高く、部活動を全くしない生徒は最も低いという結果が出ており、適度な部活動と学力との関係が見えてきました。

学校教育関係者の任務は、生徒や保護者、教員の望みに応じて部活動に際限なく打ち込むことではなく、施すべき教育として知徳体のバランスの取れた指導をすることです。スポーツ庁創設の担当者として、運動部活動の重要性を十分認識しつつ、教員一人一人が改めてその任務を確認した上で、指導力を存分に発揮されることを心から願っています。